

第10回 岩内町まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会 開催結果

○日時 令和5年3月28日(水) 午後3時~午後3時50分

○場所 岩内町役場 3階 委員会室

○出席者 委員 : 9名

事務局 : 岩内町3名

1 開会

○事務局:開会

2 議題

議題(1)「第2期 岩内町総合戦略の進捗状況について」

○事務局:(資料2 第2期 岩内町総合戦略の進捗状況について説明)

○委員:委員を受けましたが、今日が最後ということで2年間の様々な会議に参加させていただきましたが、委員の立場で基本方針2に絡めながらちょっとだけお話しさせていただきたいと思います。

役場の方や、町内有識者、企業様、高校の生徒に対して地域に係るキャリア教育も2年間ずっと携わっていただいて感謝申し上げます。私としましては、委員として考えて、岩内町ということも含めて考えますと、岩内高校の卒業生が岩内に残りやすいのではないかという判断でいえば、生徒募集も一つの目的に沿った形になるのかなと思っていて、そういう意味では、少子化進んでますけども、校内の中でも生徒募集に向けた校内の魅力化を頑張りながら、それを持って判断して貰うんですけど、町内の子ども達に選んでもらう学校づくりや、神恵内や共和、泊から子ども達が来やすい環境づくりと言う事で、学校においては、地域の委員の方から切実な問題なんだよと訴えてきているので、岩宇地区全ての中でも岩内高校の支援というのは、目的に沿う形になるんじゃないかと考えます。

岩内町だけでなく、岩宇地区での共同した支援、これは生徒募集に限ったことなんだけど、ひいては目的に沿う形になったり、岩内町の魅力化に繋がる活力になるんじゃないかと思っています。

一番は、校内の子ども達への魅力化が生徒方針では一番大切なんですけど、コミュニティスクールを通して、義務教育学校の準備委員会を通して、岩内町の子ども、岩宇地区の子ども達全員が岩内高校を選んでもらえるような、そういう魅力化にむけて校内としては取り組んでいきたいと思っていますという意気込みと、そのような方向性について校内でも話し合っていくということをご理解いただければと思います。以上です。

○副委員長:委員のほうから岩内高校だけで無く地域の魅力をうまく共有しながら、地元の子どものが岩内高校へ行って良かったと思えるような環境を作っていければありがたいなという意見だと思いますのでよろしくをお願いします。

○委員：それぞれのカテゴリー内の項目というのが、点と点で繋がる事業として骨組みを考えて行くべきところが、観光面において連携がされていない印象を受けておりました、そういったものが、相互作用を受けて大きなマンパワーを生み出すようなそういった事業の骨組みが、マンパワーが生まれづらい、影響が見えてこない、正直住民レベルで落とし込まれていないと言うところで、KPI だけにこだわって数値化させることというよりは、内情がどういうふうに伴っているかをもうちょっと見たいと思うんですけど、どこで見られるんですか。

○事務局：只今のご意見ですが、一番最初に委員のおっしゃったカテゴリーごとの連携がとれていないというところの違和感については、点で完結してしまっている部分というのも見受けられるところで課題として認識しているところであります。

その各カテゴリー内の連携というところで、今、総合戦略の、国のほうでもデジタル田園都市国家構想の中で、新たにデジタルの総合戦略を策定しなさいと言う動きになっておまして、その中でも政策間連携の重要視がされているところですので、町といたしましても、事業の横連携という部分は今回もそうなんですけど、次回以降もまた構想・戦略の策定に向けてしっかり取り組んで行かなきゃいけないなと思っているところでございます。

また、KPI よりも内容の充実についてということですが、達成状況の振り返りの一つの要素として、KPI 設定させて貰っているところでありまして、数値は達成したからといってそれが確実に内容がいいものに達成されたかと言うところは、委員がおっしゃる通り内情をしっかりと把握した上で、自分たちで事業の検証をしていくというところが一番強いかなと思いますので、現状として事務局としては、それぞれの事業は資料の2で記載させていただいております、具体的な実施内容として今押さえているところでありますが、詳細についてはそれぞれの所管によっても、おさえられていると思いますので、今回のまとめとしてはこの資料で提出いたしましたけれども、もう少し具体的に記載して、より良く見えるような形で考えていきたいと思っております。

○副委員長：今の部分は、実は町長も言っておまして総合振興計画というのを令和3年度に作りました。その中で、委員が言われているような活気溢れるまちづくりだとかというのを様々な形で、一つの事業じゃなくてどういう項目がどういう風に当てはまるかと言うのをきちんと評価する事によって、数字だけでなく満足度とかがわかるのかなと思っております。だから総合振興計画も5年に1回見直しますもので、そういうのとうまくこの総合戦略が人口減の進行にだけ特化してるとはいえ、関係が深いのでそういうのを参考にして簡単にどういう項目みたいなのがあればいいのかを、一緒に考えて行ければありがたいなと思います。

KPI というのは、一つの数字的な評価をするということも求められているので、ただ、それを達成したから今言った通り全てが満足しているものじゃないですし、その数字も一つの事業に対して一つのKPI でいいかというのもあるので、そこは総合的に考えないと行けない。

○委員：KPI が最初に低く言って、たとえば達成率に数値として結びついて無くても中長期で見たときにすごく内容が皆さんにとって効果的なものである可能性も非常に高いという風に思っていて、特に観光というのは、すぐにできるものではなく、例えばコロナ禍でDMO事業に関わらせていただきたいと思いますけれど

も、ほぼほぼ動いていないなかで、急に足並みそろえてすぐに仕掛けられるかということ全然そういうことじゃ無いんですね。

なので、そういった中でもどういったことをしてたのかと言うのが町民に見える形でないと、応援もしてもらえないと思っているので、そういった事も含めてもうちょっと内情が見えるような資料作成をしていただけると、見ている中でなにも判断が出来ないという感じなんです。なのでそこをちょっと今後よろしくをお願いします。

3 その他

○副委員長：続きまして、3「その他」について、皆さんから何かございませんか。

全体を通して3年間、コロナの関係で行政もそうですし、皆さんと対面での議論も出来ませんでした。本当にこの総合戦略、町としても大事なビジョンでありますので、どういうふうな形でやって行った方がいいのか、いろんなご意見をいただければありがたいと思いますので、全体を通してなにか、せつかくの機会ですのでもいただければありがたいと思います。

○委員：今朝、北海道新聞さんの記事の中でインターナショナルスクールが建設させると言う話が共和町のワイスのエリアに出来るという話があって、それは共和町の話と言うところで行くと、関わり方がどういふかたちでやっているか分からないんですけど、岩内町としては、追い風にどういふ風に対応していくのかと、そういった見識を教えていただければ。

○事務局：まさしく岩内町の地域というのは、岩内町、共和町、泊村、神恵内、高校圏も生活圏も同じような地域で、子ども達も顔を合わせながらいろんな体験をさせていただいているという事業もこれまでいろいろやらせていただいております。今日の新聞報道をみて全て我々把握しているわけではございませんけども、地域の特性を生かした中で、またニセコ圏との関係の交流という部分も踏まえた中で今後情報を仕入れながら町としてどういふ活動、交流ができるのかを重視していろいろ検討していければなと思います。なかなか今日の新聞の記事の部分なので共和町からもそういった情報いただいておりませんので、今後そういったところも担当者レベルの中でお聞きさせていただいて、色々考えていきたいと考えております。

○副委員長：まだ具体的に共和町さんのほうからも、うちのほうからも皆様にそういうお話をすることが厳しいんですが、ただ間違い無く言える事は、この4か町村岩内、共和、泊、神恵内。これについては連携を取りながら観光の分野、教育の分野、交通の分野やっていこうということで、ここは首長同士が常に意見交換をしていますし、振興局の委員も来られていますけど、本当にうまく調整していただいて、この前もバスの関係、そして今教育の関係も一緒にやっていただいております。

あれだけの大きな事業を共和だけで完結できるわけじゃなくて、当然岩内が果たす役割だとか、そういう部分沢山出てきますので、そこは連携を取りながらやって行くと言う話が耳にはしていますし、あれがひとつのきっかけになればよろしいですし、今産業の中でいろいろ含んでる部分があるので、そこはお互いやっていこうということで話していますので。一つ一つじゃなくて、最低4か町村で。プラスどこか増えないとなかなか地域として生き残れないのかなと。

○委員：そういう追い風が来たときにおそらく外資系の企業さんとか、教育水準を上げるためのいろいろな機関が入ってくるとおもうんですけど、その中で地元企業を応援する仕組みとか不動産業とか沢山入ってくると思うんですけど、外部に負けない地域づくり、逆に言うと外部を入れることによって機運を高めていく町としての目標というか、どういう風に考えているのかなというのを聞かせてもらえると嬉しいです。

○副委員長：今言われた通り、多くの人が入ってきて日本だけでなく海外のということになると、そしてここですぐにうまく出来るような体制、人材をうまく確保出来るかというのはすぐには出来ないんで、当然事業も学校自体は2025年度からとってまますけど、やはりここ数年かけて地元の企業、人材育成、反対に他所から受けれるための居住環境などが含めた体制を整備しなければいけない。これも岩内だけでなく、情報交換しながら4か町村やって行かなきゃ行けない。

あとございませぬか。

○委員：今、副委員長もご発言ありましたけど、委員につきましては観光面がメインでお話されたと思いますし、別の委員については、学校教育の面からお話いただいたと思います。

当然ですけども、行政って幅広いじゃないですか。学校教育もあるし観光もあるし福祉もあるし、何よりも今回第2期にはいってると思うんですけど、人口ビジョンという目標もありますし、今副委員長が言おうとした事、僕はすごく分かっていて、日本人の人口が下がっていくんですけど、岩内町も例外ではなくてほとんどの市町村が人口が下がる、2040年には維持出来なくなってくる行政機能が沢山でくると言う事で、僕のほうも努力して頑張らせていただいているのが、広域連携という一つの自治体のなかで今まで完結していたものが、2040年頃になると人口も減り役場職員の人数も減ると言うことになるので、1の自治体で簡潔したという事務というのがなかなか出来なくなっていると言う事が想定されているんです。

そういう中でいかに協力しあえるものをどう協力しあうかと言う事を真剣に考えて行かなきゃならない時期でありますし、一番わかりやすいのは、岩内町さんの施設も隣接されてますけど、本来は岩宇4団体ですから、共通して持っている子育て支援の場なんで、そういう形で1の自治体だけでやっていくというのはなかなか難しい時代が既に到来しているというのがございます。

産業面でいうと非常にここ数年はコロナ禍でご苦労あったかと思えますけども、養殖サーモンのブランド化を図るために新規事業を着手しておりますし、子育て支援、若い人たちに定着してくれないと産業も育ちませんし、観光面、学校面もそうですけど、入学してくれる人を増やすとか観光産業を呼び込むにも人工が必要ですから、定着していただけないとなかなか難しいと思います。人口は減っているけど、移住定住してくれる人がいないと今のベースを守っていけないというのもございますので、そういう取組を先駆的に岩内町さんが取り組まれていると言うことがございますので、そういうことが一つずつの計画が積み重なって点のようなKPIのひとつの数値にしか見えないかもしれませんが、取組がひとつずつ繋がって行って、最終的には、岩内町総合振興計画という最上位計画、そこに結びついて行政を回して行くんじゃないかと思っております。

今日初めて出席させていただいたのでKPIの指標ですとか、内容について初めて勉強させていただき

ましたけど、今後新しい視点、例えば一つずつの項目の中身が内容が充実すると目黒さんが言っていた点だけの部分では無くて、少し広がった内容部分もここら辺で網羅出来るんじゃないかなと思いますので、次回委員会の際には工夫されてはいかがかと思います。以上です。

○副委員長：あとは、ありませんか。

○事務局：今後の総合戦略の推進に向けた流れでございます。

本日各委員の皆様からいただいたご意見等を踏まえ次年度におきましても、所管とのヒアリングを行っていきながら、引き続き総合戦略の推進に向けて取り組んでいきたいと考えております。

次回の委員会につきましても、開催時期が決まり次第、お知らせさせていただきますので、委員の皆様のご協力をよろしくお願い致します。以上です。

3 閉会

○事務局：閉会